

国語

第1問 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

外国人研究者を含めて、明治期の人類学者、考古学者は、記紀（古事記・日本書紀）の記述にも依拠しながら、かつて日本列島に暮らしていた先住民族に後来の日本人の祖先が取って代わったと考えていた。したがって、明治期の人類学・考古学では、日本の先住民族の正体が最大の関心事となったが、本論では、このように日本列島の支配者が交替したと考える思考枠組みを人種交替モデルと呼んだ。

そして、人種交替モデルにもとづく日本人起源論の完成形と考えられるのが鳥居龍蔵の固有日本人説である。鳥居は、自らの海外調査や当時最新の考古学上の知見にもとづき、と主張した。

だが、鳥居による固有日本人説提唱の直後から、記紀に大幅に依拠した明治期以来の人種交替モデルへの批判も始まることになった。濱田耕作、長谷部言人、松本彦七郎、清野謙次といった次世代の研究者は、と主張した。

こうした枠組みを本論では人種連続モデルと呼んだが、その到達点となったのが1920年代末に登場した清野謙次の混血説である。大量の古人骨の計測データにもとづく清野説は学界に大きなインパクトを与え、1930年代以降、先史時代の遺物を先住民族（アイヌ）のものともみなすことは徐々に困難となり、考古学の「人種論」からの自立も進行していった。

, それにより土器の型式を集団の違いと結びつける発想が完全に無くなったわけではない。1930年代には山内清男、小林行雄ら若手考古学者により縄文土器、弥生土器の編年研究が進められたが、縄文土器を残した人びとと弥生土器を残した人びとは別の集団（民族）であり、彼らが混血して日本人になったと考える考古学者も存在した。このように明治期以来の人種交替モデルの一部を引き継ぐ思考枠組みを、本論では縄文／弥生人モデルと呼んだ。

, 1920年代後半は、中国における北京原人の発見にも刺激され、日本でも旧石器時代への関心が高まった時代であった。そうしたなか、1931年に

報告された明石人骨発見のニュースは多くの研究者の関心を集めたが、否定的評価に終わった。結局のところ、C。

Ⅲ，日本がアジア太平洋戦争へと向かう1930年代末以降，人類学者，考古学者は再び記紀を強く意識するようになる。戦時中，長谷部，清野といった人類学者が従来の人種連続モデルにもとづいて日本人の起源を論じる一方，考古学者のあいだでは縄文／弥生人モデルの支持者が増えていく。ただし，記紀神話（皇国史観）の影響が強まったこの時期，人類学者，考古学者ともに，日本人の祖先（あるいはその構成要素としての弥生人）の海外からの渡来を語らず，また当時，喧伝された大東亜共栄圏構想との整合性から，D。

日本敗戦後，考古学者のあいだでは，それまでの石器時代という呼称に代わり，縄文時代・弥生時代という時代区分が広がっていき，それにともない，人類学者も縄文（時代）人，弥生（時代）人という呼称を使うようになった。

当然，従来の皇国史観は否定され，登呂遺跡の発掘，岩宿遺跡の発見といった画期的な成果も得られたが，人類学者，考古学者の日本人の起源に関する考え方は，日本人の祖先（あるいは弥生人）の海外からの渡来を認めた以外は戦時中とあまり変わらなかった。つまり，考古学者の多くが弥生文化の担い手の大陸からの渡来と縄文人との混血を想像する一方，人類学者の日本人起源論では混血を否定する戦時中以来の理論が支配的だった。

こうした長年にわたる人類学者，考古学者の認識のズレを解消したのが，1950年代，西日本各地で発掘された弥生人骨にもとづく金関丈夫の渡來說である。その後，長谷部の理論を踏襲し，従来の人種連続モデルに立つ鈴木尚の変形説との共存状態が続くが，1980年代までに渡來說（縄文／弥生人モデル）を支持する証拠が増え，鈴木もついに渡来を認めるにいたった。

そして，縄文／弥生人モデルの「勝利」を決定づけたのが，1991年，最初は英文で発表された埴原和郎の二重構造モデルにほかならない。その後，埴原は邦語論文や概説書などでも持説を繰り返し喧伝し，二重構造モデルは広く知られるようになった。

埴原の二重構造モデルが，国際日本文化研究センター（日文研）の初代所長をつとめた梅原猛（哲学者）との密接な協力関係のなかで形成された理論だったこ

ともにも注意が必要である。彼らの回想によれば、1981年に梅原猛、江上波夫、上山春平、中根千枝が幹事となった研究会で、はじめてふたりは出会い、翌年には対談集『アイヌは現日本人か』を刊行する。

この対談を読むと、のちの二重構造モデルの基本的着想がすでに胚胎していたことがわかる。梅原によると、それ以前から彼は「日本の基層文化を縄文文化におき、その基層文化に以後の日本文化は深い影響を受けた」という「巨大な仮説」を立てており、そうした関心から埴原を知るようになったという。

これ以上ふたりの関係には踏み込まないが、ここで見逃せないのが、梅原猛とその先駆者・同伴者である京大系の研究者（いわゆる新京都学派）こそが、現在巷にあふれる、縄文を日本の基層、深層、古層などととらえる発想の起源だと思われることである。そこで次に、こうした発想が広がった経緯について考えてみよう。

現在ブームになっている縄文は、しばしば日本の基層（深層）文化といった表現とともに語られてきた。最近では基層（深層）文化といった生硬な学術用語よりは古層などの表現で語られることも多いが、いずれにせよ、現在の日本文化と
呼ばれるものの深い（古い）ところに縄文文化が隠されている⁽¹⁾と考えるわけである。

基層文化、古層、原型、基底（あるいは文化的遺伝子）といった縄文文化の捉え方は一体いつ頃始まったのだろうか。このように縄文を日本文化の深い（古い）ところに隠されたものだとする発想の直接的起源は、1970年前後にまでさかのぼる。ここで注目されるのが、梅原猛も用いていた深層（文化）という表現である。

津城寛文によれば、ここでいう「深層」は、第一義的にはドイツ民俗学が20世紀初めに用いた基層文化の言い換えであり、その後、民族学や民俗学の外で深層文化という語が基層文化とほぼ同じような意味で用いられるようになった。その中心となったのが梅原猛だが、典型的な深層文化論者である梅原には、これらの術語使用の融通無碍さが現れているという。

実際、梅原の『日本の深層』⁽⁷⁾では、彼が日本の「深層」だと考える縄文（人）について、「日本文化の源流を探る」「縄魂弥才」（和魂洋才のもじり）「隠された

原日本人の魂」「日本の基層文化」といった具合に、「隠された縄文」のイメージが繰り返し表現されている。

1970年代以降、日本文化の本質（起源）を（弥生時代に始まる）水田稲作に求める「水田中心史観」に対する批判が坪井洋文（民俗学者）や網野善彦（中世史家）らによって進められたが、縄文を基層文化、深層文化などにとらえる上山、梅原らの議論もこうした潮流に棹さすものであった。

いずれにせよ、「基層文化」や「深層文化」は、ある種のマジックワードだったといわねばならない。上山や梅原に代表される縄文＝基層（深層）文化論については、その後、考古学者を含めて、さまざまな批判がおこなわれた。それにもかかわらず、こうした表現の延長線上で、縄文（文化）を基層、深層、古層など、さまざまに表現する俗流文化論が現在まで続いていると考えられる。

そもそも日本文化（起源）論は、何を日本文化の特徴とみなすかによって議論の仕方は変わってくる。かつてのように、水田稲作ととらえれば弥生文化に起源を見出せるし、最近のように、「自然と共生する縄文文化」に日本文化の起源を見出すこともできるわけだ。縄文＝基層（深層）文化論が無意味というわけではないが、日本文化論が大衆消費財といわれる所以である。

そして埴原和郎の二重構造モデルも、こうした大衆消費財としての縄文＝基層（深層）文化論の広がりとともに人口に膾炙^(オ)するようになったことを見落とすべきではないだろう。

（出典）坂野徹『縄文人と弥生人「日本人の起源」論争』中公新書、2022年。ただし、出題のために一部変更した。

問1 空欄 , にあてはまる最も適切なものを、以下から一つずつ選べ。ただし、それぞれの空欄には異なるものが入る。

(A) , (B)

- ① 固有日本人は万世一系の天皇家とともにあり、その出発点として天孫降臨伝説がある
- ② 特定の土器の形状や形式をその時代の固有の集団と結びつけ、記紀の正当性を証明できる
- ③ 氷河期に中国大陸から日本列島に流入した集団と南方から流入した集団によって形成された
- ④ ネアンデルタール人が先に日本列島に定住していたが、その後、現生人類に取って代わられた
- ⑤ 土器や石器などの先史時代の遺物を残したのは日本人の祖先であり、現代まで日本列島の住民は連続している
- ⑥ 日本の先住民族であるアイヌが縄文土器を残したのに対して、日本人の祖先が弥生土器を残した

問2 空欄 , にあてはまる最も適切なものを、以下から一つずつ選べ。ただし、それぞれの空欄には異なるものが入る。

(C) , (D)

- ① 大東亜共栄圏という考え方は、日本とアジア諸国の連帯を発展させることはなかった
- ② 朝鮮半島や台湾の植民地化の正当性が強調された
- ③ 八紘一宇というスローガンのもとアジア諸国との協力関係が構築された
- ④ 戦前の旧石器時代研究と日本人起源論が結びつくことはなかった
- ⑤ 日本人の混血性や他民族との闘争は否定されることになった
- ⑥ 旧石器時代への関心は、記紀の叙述に合うように、誘導された

問3 空欄 ～ にあてはまる最も適切なものを、以下から一つずつ選べ。ただし、それぞれの空欄には異なるものが入る。

(I) , (II) , (III)

- ① 例えば ② また ③ ゆえに
④ あるいは ⑤ そして ⑥ しかし

問4 下線部(ア)の意味として最も適切なものを、以下から一つ選べ。

- ① 事物の基となるものがはじまっていること
② 一定の現象を統一的に説明しうるように設けられた仮定が作られていること
③ ある事物の基礎となって根底に横たわっていること
④ 心の中に工夫が思い浮かぶこと
⑤ 事物のおおよその仕組みが形作られること
⑥ 理性的思惟によって存在が捉えられること

問5 下線部(イ)の内容として最も適切なものを、以下から一つ選べ。

- ① 日本の文化の起源には、漢字の使用に代表される中国の影響による天平文化の人々の生活様式が隠されている。
② 日本の文化の起源には、豊かな水源を利用した稲作を営んでいた人々の生活様式が隠されている。
③ 日本の文化の起源には、和を以て貴しと為す、お互いに尊敬し合う関係を特徴とした人々の生活様式が隠されている。
④ 日本の文化の起源には、記紀（皇国史観）をもとにした豊かな人々の生活様式が隠されている。
⑤ 日本の文化の起源には、自然と格闘し、それを制御しようとした縄文の人々の生活様式が隠されている。
⑥ 日本の文化の起源には、自然と一体となり生活していた人々の生活様式が隠されている。

問6 下線部(ウ)の類義語として最も適切な四字熟語を以下から一つ選べ。 10

- ① 諸行無常 ② 本末転倒 ③ 以心伝心 ④ 聖人君子
⑤ 臨機応変 ⑥ 言語道断 ⑦ 一所懸命 ⑧ 金城湯池

問7 下線部(エ)の内容として最も適切なものを、以下から一つ選べ。 11

- ① 日本文化論は、梅原猛に代表される新京都学派との共同研究によって発展した学問であるため。
② 日本文化論は、その時の時代状況や人々の社会意識の中で求められ、大きく変化するものであるため。
③ 日本文化論は、その起源や特徴を縄文文化や弥生文化に求める点に特徴を持っているため。
④ 日本文化論は、縄文土器を残したアイヌを先住民族とした人種交代モデルから、二重構造モデルに発展したため。
⑤ 日本文化論は、縄文文化を基層文化としたが、この背景にはドイツ民俗学の影響があるため。
⑥ 日本文化論は、単一民族である日本民族の起源を解き明かそうとする多くの人々に求められているため。

問8 下線部(オ)の意味として最も適切なものを、以下から一つ選べ。 12

- ① 起伏や変化が激しく、次々と言うことが変わること
② 人口の増大によって、多くの人々に支持されること
③ 広く人々の話題になってもてはやされること
④ 疾風や雷のように、激しい言動のこと
⑤ 話す内容は正確であるが、率直に欠点を指摘すること
⑥ 興奮して感情が高ぶり激しく議論すること

第2問 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

言語の価値とバイリンガリズム

ひとつ仮定の問題を考えてみましょう。若い読者の方も多いかと思いますが、年をとったときのこととして考えてみてください。もし、みなさんのお子さんが、外国人と結婚して、日本に住むことになったとしたら、その子ども（つまり皆さんの孫）を日本語と外国語のバイリンガルに育てたいでしょうか？相手が英語話者ならどうでしょう？ドイツ語では？オランダ語では？中国語では？韓国語の場合は？タガログ語なら？ベトナム語では？

おそらく多くの方は、英語なら手放しでバイリンガルにしたいと思うでしょう。それは、「英語ができれば学校や就職で有利」という有用性だけの問題ではなく、英語という言葉のもつ「かっこよさ」が関連しています。多くの日本人は、長年英語を勉強していてもなかなか使えるようにならない。そのため、日本社会では英語を使えるというのは特別なステータスがある。ある人が、「日本人の英語学習の最大の動機は、A」と言っていました。これは面白い仮説です。先日、渋谷の街を歩いていたら、目の前に巨大な広告板があり、すべて英語でコンサートを宣伝していました。外国のアーティストかなと思って近づいて行ったら、藤井フミヤさんでした。なぜ広告会社がこのようなことをするかというと、「内容がわかる」ということよりも、英語という言葉が与える「かっこいい」イメージを重視しているのでしょう。

しかし、英語はもうできる人が多くなったので、最近ではBを避けるために、その他の言語を使う場合もあります。たとえばマンションの名前（メゾンなんか）、競走馬の名前（オルフェーヴル）などもそういった傾向があります。そして、それはほとんど例外なく西洋語です。これは、世界には西洋（白人文化）を中心にした階層があるからです。最近のワインブームなども同じことで、日本酒よりもワインを飲めば、なんとなく西洋的な、高級な感じがします。中国でも今ワインの消費量が爆発的に増えているようです。私たちは知らず知らずのうちに、西洋中心の世界観にとりこまれているのです。このような言語に対するイメージが微妙にバイリンガルを選ぶかどうかに関わってくるという研究も

あります。

どうすればバイリンガルになれるのか

どうすればバイリンガルになれるのでしょうか。私たちは多くの時間をかけて英語を勉強しますが、それだけではなかなか英語が使えるようになりません。

二つの言語を流暢^{りゅうちょう}にあやつるバイリンガルは、言語知識の容量に限界がないのでしょうか？この人たちのことばの習得方法は何が違うのでしょうか？どのような条件において、両言語において母語話者に近い能力を身につけた「均衡バイリンガル (balanced bilingual)」が育つのでしょうか？

この問題に対する答えは、おおざっぱに言って二つあります。

ひとつは、「資源の共有」ということです。日本語と英語がまったく別々に習得されるのならば、英語の知識が増えると、日本語の知識が減ってしまうということもあるかもしれませんが、実はかなりの部分で、言語知識は共有されます。ただし、どこがどう共有されるかは、まだはっきりわかりません。たとえば、「名詞」という概念は、多少の違いはあっても、ほとんどの言語にあるので、ひとつの言語で「名詞」という概念を習得すれば、もうひとつの言語でも容易です。

C 1 日本語と韓国語は似ているので、両言語を使うときの脳活動の部位は、日本語との違いが大きい英語や中国語に比べて共通する部分が比較的多いという研究もあります。これは、似ている言語の場合、この「資源の共有」が行われやすい可能性を示唆しています。

この「資源の共有」に関する最も重要な理論は、ジム・カミンズの「読み書きの能力 (リテラシー) も含めて、思考力と関係の深い言語能力は共有される」という考え方です。脳の処理能力に限界があると考えれば、二つの言語を高いレベルであやつるということは、非常に難しいはずですが、実際にはそのようなバイリンガルは多数存在します。これが可能になるのは、脳が二つの言語を別々に記憶、処理しているのではなく、**D**、と考えるのが、カミンズの二言語基底共有説 (もしくは、二言語相互依存説) です。そして、主として共有されるのは、日常会話能力 (BICS = Basic Interpersonal Communicative Skills) ではなく、教科など、複雑な内容を扱う学習言語能力 (CALP =

Cognitive Academic Language Proficiency) のほうです。バイリンガルといっても、ただ日常会話ができるというレベルと、複雑な内容を議論したり書いたりというレベルとでは、話が違うのです。

これはある意味では納得のいく話で、たとえば、片方の言語で教科書を読む能力を身につければ、もうひとつの言語でも、かなりの程度その能力が転移するからです。以上が、バイリンガルが可能になる、ひとつ目の理由です。

もうひとつの理由は、言語習得の方法です。言語習得は、「インプットを理解すること」によっておこると考えられています。インプットとは、ことばを聞いたり読んだりして理解することです。ですから、日本など、外国語によるコミュニケーションの機会の少ないところで勉強すると、言語習得のもっとも重要な機会が失われます。バイリンガルになる人は、例外なく、言語をコミュニケーションの手段として、かなり高いレベルで使用する経験を積んでいます。

学習言語能力の習得には時間がかかる

バイリンガルの条件を述べましたが、移民のこどもなどの場合に注意しなければならないのは、日常会話能力に関しては一、二年で身につくけれども、学習言語能力が年齢相応のレベルに達するのには少なくとも五年から七年かかる、ということです。幼少時に日本に来た外国人子弟が一、二年で日常会話がこなせるようになったとします。それを見て、もうこの子は日本語は大丈夫だと思ってしまうがちなのですが、日本語で日常会話を流暢に使いこなせる子どもが、複雑な言語使用、たとえば数学の文章題を理解したり、社会科の複雑な議論をしたりすることがまったくできない、ということはよくあります。これを見て、この子は頭が悪いのだろうと思ってしまう危険があるのですが、これが、実は言語の問題であることが多いのです。まず、ただ単にまだ複雑な内容を処理するだけの第二言語能力が身についていないという可能性があります。

C 2

、母語でも第二言語でも学習言語能力そのものが発達していないという可能性もあります。学習言語能力は学習者の母語で身につけてもいいし、第二言語で身につけてもいいのですが、どちらにしろ、日常会話能力よりは習得に長い年月がかかることに注意が必要なのです。

このことから推測されるように、母語で十歳くらいまで教育を受けて学習言語能力を発達させてから移民した子どものほうが、それより若く、学習言語能力が未発達なまま移住した場合より、両言語ともに高いレベルで使いこなせるバイリンガルになる可能性が高いという研究結果が出ています。ただし、このことから、幼いうちに移住してはいけない^(ア)ということになるわけではなく、その場合には、母語による教育をつづけて学習言語能力に習熟させるか、もしくは第二言語で教科を教えること（イマージョン教育）により第二言語で学習言語能力を発達させ、それを逆に母語の学習言語能力に転移させる、という方法をとる必要があります。とにかく、十分な注意を払い、すべての子どもが学習言語能力を発達させることができるような環境をととのえなければなりません。

E

子どものころから第二言語環境におかれれば、自然に両言語ともよくできる均衡^(イ)バイリンガルになる、というのは幻想です。実際にはさまざまな要因により、そうならない場合もあります。第二言語の日常会話能力だけ発達して、複雑な会話ができないのでは、均衡バイリンガルとはいえません。ひどい場合には、母語でも第二言語でも学習言語能力が発達しないまま終わってしまうケースも考えられるのです。これをダブルリミテッドと呼ぶこともあります。

カミンズは、さらにどのような場合に子どもの認知発達がうまくいくかの説明を試みました。これを「しきい仮説 (threshold hypothesis)」^(ウ)といいます。この説では、しきいを二つ想定し、上のしきいに両言語が達した場合のみ、認知発達にプラスとなり、逆に両言語とも下のしきいに達しない場合は、認知発達にマイナスとなり、学業不振になりがちだといいます。片方の言語だけ上のしきいに達した場合は、認知面にはプラスもマイナスもなく、片方がより強いバイリンガルになる、という仮説です。

日本の状況に照らして考えれば、移民などの子どもの将来を考えた母語保持と日本語習得の両立を考えた政策が望まれるところです。少なくとも、母語でも日本語でも認知的に複雑な言語使用ができない、という状況は避けなければなりません。書き言葉の絶対視は標準語イデオロギーの規範主義にのっとっていること^(エ)

は確かですが、標準的書きことばを習得しないことには、社会において不利を被ることは事実なのであります。

世界を見ればモノリンガルは少数派

日本という国は、方言が豊富にあるにもかかわらず、明治政府以来の標準語政策により、標準語主義とモノリンガル主義が非常に強い。

日本では、バイリンガルになるということは非常に特殊なことのよう思われているのですが、これは歴史的な理由によるもので、世界的にはバイリンガルは特殊なものではありません。

日本での外国語教育は、日本語と大きく異なる英語という言語にほぼ集約され、またバイリンガルを達成できないような効率の悪い方法で教えているので、バイリンガルになれるのは、ごく一部のエリートのように思われています。

C 3，世界を見わたせば、ひとつの言語しか話さないモノリンガルのほうが少数派です。世界の七割以上の人には二ヶ国語以上を話し、モノリンガルは三割しかいないのです。また、方言と標準語のバイリンガルが多数いることは、あまり意識されていないのかもしれない。

F。モノリンガルにこだわる人のほうが、規範主義、純粹主義におかされているといってもいいでしょう。モノリンガルのほうが優れているというのは、科学的には何の証拠もない信念、推測にすぎません。

(出典) 白井恭弘『ことばの力学—応用言語学への招待』岩波新書、2013年。ただし、出題のために一部変更した。

問1 空欄 にあてはまる最も適切なものを、以下から一つ選べ。

- ① 海外勤務ができるということだ
- ② 海外留学ができるということだ
- ③ 就職活動を乗り越えられるということだ
- ④ 大学受験を乗り越えられるということだ
- ⑤ ほかの日本人にどう思われるかだ
- ⑥ 外国人にどう思われるかだ

問2 空欄 にあてはまる最も適切なものを、以下から一つ選べ。

- ① 簡素さ ② 斬新さ ③ 冗長さ
- ④ 奇抜さ ⑤ 陳腐さ ⑥ 窮屈さ

問3 空欄 ～ にあてはまる言葉の組み合わせとして最も適切なものを、以下から一つ選べ。

(C 1) (C 2) (C 3)

- ① しかし — さらに — しかし
- ② しかし — さらに — さらに
- ③ しかし — つまり — しかし
- ④ しかし — つまり — さらに
- ⑤ また — さらに — しかし
- ⑥ また — さらに — さらに
- ⑦ また — つまり — しかし
- ⑧ また — つまり — さらに

問4 空欄 D にあてはまる最も適切なものを、以下から一つ選べ。

16

- ① 二つの言語をすべて同じ部分で共有しているため
- ② 二つの言語を同時に処理しているため
- ③ 二つの言語を同じものとして処理しているため
- ④ 二つの言語に共通している部分は共有しているため
- ⑤ 二つの言語の一方にしか関連しないことは記憶しないため
- ⑥ 二つの言語のどちらにも関連しないことは記憶しないため

問5 下線部(ア)と整合的な内容として最も適切なものを、以下から一つ選べ。

17

- ① 学習言語能力を発達させるためには、第二言語で生活する環境をととのえれば良い。
- ② 学習言語能力は、日常会話能力と同時に習得することができる。
- ③ 学習言語能力は、日常会話能力よりも習得に長い年月がかかる。
- ④ 学習言語能力を発達させるためには、できるだけ幼いころに移住する方が良い。
- ⑤ 学習言語能力を発達させるためには、日常会話ができるようになってから移住する方が良い。

問6 空欄 E にあてはまる最も適切な小見出しを、以下から一つ選べ。

18

- ① 環境を重視する言語習得
- ② 均衡バイリンガルがもつ可能性
- ③ 移民の子どもへの政策
- ④ 書き言葉という規範
- ⑤ ダブルリミテッドの危険性
- ⑥ イマージョン教育による言語習得

問7 下線部(イ)の理由として最も適切なものを、以下から一つ選べ。 19

- ① 第二言語の習得には、年齢に応じて環境を変化させる必要があるから。
- ② 幼少期に移住すると、母語でも第二言語でも日常会話能力が発達しない可能性があるから。
- ③ 日常会話能力の発達が、学習言語能力の発達をとまなわない可能性があるから。
- ④ 第二言語能力の習得には、イマージョン教育が不可欠だから。
- ⑤ 母語と第二言語の両方を習得するには、二重の制約があるから。

問8 下線部(ウ)について、本文から読み取れる内容と整合的なものとして最も適切なものを、以下から一つ選べ。 20

- ① 母語が上のしきいに達していれば、第二言語が下のしきいに達していなくても、認知発達にはプラスになる。
- ② 母語と第二言語の両方が下のしきいに達していれば、認知発達にはプラスになる。
- ③ 母語と第二言語の両方が上のしきいに達してはじめて、認知発達にはプラスになる。
- ④ 第二言語が下のしきいに達していなければ、母語が上のしきいに達していても認知発達にはマイナスとなる。
- ⑤ 母語と第二言語の両方が上のしきいに達しない場合は、認知発達にマイナスとなる。

問9 下線部(エ)の意味として最も適切なものを、以下から一つ選べ。

21

- ① 社会における一人の人間の個性としての標準語の話し方
- ② 社会における標準語を使うべきだという考え方
- ③ 人種や地域によって多様に存在する標準語の形態
- ④ 社会の中でマイノリティが標準語を話さないこと
- ⑤ 社会の中で大多数が標準語を話している状態
- ⑥ 社会に標準語が浸透しない様子

問10 空欄 F にあてはまる最も適切なものを、以下から一つ選べ。

22

- ① しきい仮説は規範ではありません
- ② しきい仮説は悪ではありません
- ③ 二言語基底共有説は規範ではありません
- ④ 二言語基底共有説は悪ではありません
- ⑤ バイリンガルは規範ではありません
- ⑥ バイリンガルは悪ではありません

問11 本文の内容としてより適切なものを、以下から二つ選べ。

23

,

24

(順不同)

- ① バイリンガルになるためには、学習言語能力は学習者の母語で身に付ける必要がある。
- ② バイリンガルになるためには、母語で十分な日常会話能力を身につけ、その能力を第二言語に転移させることが重要である。
- ③ バイリンガルになるためには、二つの言語を別々に記憶処理する習慣をつけることが重要である。
- ④ バイリンガルになるためには、しきい仮説における上のしきいに両言語が達することが重要である。
- ⑤ バイリンガルになるためには、両言語に同時に接する環境を整えることが重要である。
- ⑥ バイリンガルになるためには、親がバイリンガルであるかどうか重要である。
- ⑦ バイリンガルがエリートの必須条件であるということは、世界的に見れば事実である。
- ⑧ バイリンガルが特殊なものではないということは、世界的に見れば事実である。

第3問 各問いの二重下線部のカタカナと同じ漢字を使うものを、以下から一つ選べ。

問1 強いタイカンを持つスポーツ選手。 25

- ① 山頂からの眺めはアッカンの景色だ。
- ② 次第にサイカンが評価される。
- ③ 熱帯地域ではまもなくカンキになる時期だ。
- ④ 首位から最下位にカンラクする。
- ⑤ 女帝がオウカンを被る。

問2 随所にフクセンが張られている小説。 26

- ① 表彰式でフクショウの記念品が授与された。
- ② 終戦に伴い、外地からフクインした。
- ③ 目的は全てセイフクすることができた。
- ④ 家臣たちは領主の前にヘイフクした。
- ⑤ トンボの特徴はフクガンを持っていることである。

問3 企業は社会のコウキであるべきだ。 27

- ① 机などのジュウキを搬入する。
- ② 監督はキサクを用いてチームを勝利に導いた。
- ③ 文化祭の出し物をキカクした。
- ④ 事件はジョウキを逸するものだった。
- ⑤ 国のコウキを肅正する。

問4 協定書をキソウするために集まる。 28

- ① 彼は財閥のソウスイとなった。
- ② ホルモン物質がランソウから分泌される。
- ③ 物語の今後の展開をヨソウする。
- ④ 演説のソウコウを作成している。
- ⑤ フルマラソンをカンソウした。

問5 彼のキョウジュツには妥当性がある。 29

- ① 商業施設によって街はカツキョウを呈する。
- ② 実家にキキョウする予定です。
- ③ 小売業者に商品をキョウキユウした。
- ④ ヘンキョウな考え方をしないように意識する。
- ⑤ 科学の進歩により、便利な生活をキョウジュする。

問6 誰彼となくムヤミに声をかけることは控えるべきだ。 30

- ① 現代社会は様々なムジュンを抱えている。
- ② 億万長者になることをムソウする。
- ③ ナポレオンはテンカムソウの英雄だ。
- ④ 解決方法が見つからず未だゴリムチュウの状態だ。
- ⑤ 人手不足のため複数の役職をケンムする。

問7 時間がセツナ的に過ぎ去ってゆく。 31

- ① ナムアミダブツの念仏が聞こえる。
- ② ナハ市は沖縄の県庁所在地だ。
- ③ 駅裏の細い路地には昭和のナゴリが感じられる。
- ④ ナタネ梅雨で曇天が続いている。
- ⑤ 裏庭のナヤに野良猫が住みついた。

問8 ヒヤッキヤコウの政界で活躍する。 32

- ① 高品質な金属を製造するには優れたヤキン技術が必要だ。
- ② 熱にうなされてヤハンに何度も目が覚めた。
- ③ 彼はしたたかなヤシンを持っている。
- ④ 日本にはヤオヨロズの神がいるとされている。
- ⑤ 一家のヤタイボネとして一生懸命に働いた。

問9 物価上昇にともないキュウヨがあがる。 33

- ① 地震のメカニズムをキュウメイする。
- ② 支援を得るために SNS で被災地のキュウジョウを訴える。
- ③ あの映画はフキュウの名作として知られている。
- ④ 先生からキュウダイテンを与えられた。
- ⑤ かつて、レストランのウェイター、ウェイトレスのことをキュウジと呼んだ。

問10 六甲山系の山々をジュウソウする。 34

- ① パイロットになって飛行機をソウジュウしてみたい。
- ② スマホの画面を見すぎて目がジュウケツしてしまった。
- ③ 議会をカイジュウして法案を早期に成立させた。
- ④ 放射性物質を取り扱う際はゲンジュウな管理が求められる。
- ⑤ 教育関係の仕事にジュウジする。